

訪問型議会報告会

佐野高校は国際的に活躍できる人材の育成を目指す文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール」(SGH)に指定されています。同校に60以上あるSGH活動班のうち4つの班に参加していただきました。



外来魚大進化計画 ～ let's make 魚粉～ 魚粉班

背景 全国的に外来魚が増加し、駆除活動が盛んに行われているが、捕獲した外来魚はほとんどが廃棄されている。人間と外来魚のより良い共存の在り方に着目し、駆除された外来魚を有効的に活用できないだろうか。

仮説 外来魚を手軽に扱いやすい魚粉に加工すれば、作物を育てる肥料として有効活用できるのではないかな。

研究・実験 一般的な化学肥料と2種類の魚粉肥料を用いて小松菜を育て、育ち具合や収穫時の状態を観察した。

展望 実験で得た結果をもとに、今後も新たな作物(果菜・根菜)を生育する。外来魚魚粉の特徴や利便性を地域に広めたい。

議員の所感 新たな発想で魚粉に加工し、地域・企業・漁協等の関連団体との連携で新たな事業化も図れ、6次産業化も夢ではありません。今後の更なる研究を期待します。



キャンプ場を利用したまちおこし計画 キャンプ班

背景 佐野市の北部は観光資源が少なく、人を継続して呼び込めていない。豊かな自然や広大な土地を生かし、活性化することはできないか。

仮説 五感を刺激され、非日常を体験できるキャンプに着目し、豊富な自然を生かしたキャンプ場をPRすれば、人を呼び込めることができるのではないかな。

現状分析 10代20代の若者の利用が少なく、冬キャンプが人気があるのに冬季休業があることがわかった。

解決・考察 イベントの企画や、天明鑄物のキャンプ用品(スキレット、鉄板)としての活用、SNSでのキャンプ場のPRなどを行うことで、北部への観光客を呼び込める。多くの世代の人に市回遊型の観光を楽しんでもらい、市全体の活性化や持続可能なまちづくりにつなげることができる。

議員の所感 観光立市を掲げている本市として、大変参考になる研究テーマでした。キャンプ用品として天明鑄物の活用を結び付けた発想力も素晴らしく、更なる研究の取組、発展を期待します。



を開催しました

7月11日(土) 午後1時30分
会場：佐野高校

概要

佐野市議会の議員12名が、SGH活動でまちづくり研究を行っている佐野高校の生徒を訪問しました。まず、議会の仕組みを説明させていただいた後、生徒から、4つのテーマについて政策提言を受け、意見交換を行いました。内容の一部をご紹介します。

※班ごとに会場を分けるなど、感染予防に努めて実施しました。



クリケット×多文化共生～佐野から始まるクリケット革命～ クリケット班

背景 佐野市はクリケット振興に熱心に取り組んでおり、多くの外国人が市を訪れているが、市民、特に中高生は関心が低く、国際交流の機会を逃している。

仮説 クリケットを使った国際交流の機会を提供すれば、市民のクリケットへの関心を高めるだけでなく、外国人の方の地域とのつながりも深まり、多文化共生につながるのではないかな。

研究 高校内で国際交流会やクリケット体験会を実施し、親睦の場や、直接クリケットに触れる機会を提供した。

考察 市民と外国人の橋渡し役を中高生が担うことができる。一部の関係者のみで推進するのではなく、教育委員会や地域機関と連携し、市民全体で持続可能な貢献を目指していく。

議員の所感 誰かにその解決を委ねるのではなく、自分たちがその中核的な役割を果たすとの主体性に、地域に対する熱く真摯な思いと、未来への責任感が強く感じられました。



レストランメニューの多言語化 多言語メニュー班

背景 外国人観光客が旅行中、困ったこととして「多言語表示の少なさ」「コミュニケーションがとれない」等が多いことから、どうすれば外国人観光客の感じる「言語の壁」をなくせるか考えた。

仮説 レストランメニューを多言語対応させれば、佐野市が外国人観光客にとって心地良い場所になるのではないかな。

研究 外国人がどれほど困っているかをわかっていないため、英語メニューを扱うお店が少ない。実際に英語メニューを作成したところ、肯定的な評価であり、有用であることがわかった。

考察 お店側も新たな顧客を獲得することができ、双方にメリットがある。適切な支援策を講じて多文化対応メニューを導入すれば、言語の壁をなくすことができる。

議員の所感 飲食店関係の市民の皆様や関係者との交流を通じて、シビックプライド(市に対する市民の誇り)の観点から市の発展に興味を抱いており、今後の将来性が垣間見えました。

